

Next関西

venture

インターネットの浸透でパソコンがあれば知りたい情報を探せるようになったが、パソコン操作に不慣れた高齢者はその恩恵を受けにくい。こうした情報格差を解消しようとして、音声で端末を操作したり、情報検索を代行するなどのサービスをベンチャー企業が提供している。テレビや電話に比べて元々、キーボードは操作しにくいこともあり、情報が簡単に検索できるサービスの需要は大きそうだ。

「電話をインターネットの端末にできれば、高齢者でも簡単に利用できる」。音声認識装置を使ったテレマーケティング会社の電話放送局(大阪市)の内田剛社長は、六月末から始めたサービス「大阪ボイスポータル」の利点をこう説明する。

利用者が同社の専用ダイヤルに電話し、音声ガイダンスに従って順番にキーワードを話すと、あらかじめネットで検索済みの情報を探して、検索結果を音声で伝える。「キーボード入力が苦手な高齢者もネット上の情報を手軽に検索できる」(内田社長)。

現在、検索可能な情報の種類は「ニュース」「グルメ」「ホテル」「JRA競馬情報」「行政」「劇場案内」「地域情報」の七種類、三千二百七十件。例えば入浴介護サービスを会社を探すにはまず「行政」を選び、サービス内容として「入浴したい」と言えば、入浴介護サービスの会社の社名や所在地を数秒後に答えてく

高齢者のネット活用支援

VB各社、サービス提供

る。「グルメ」なら音声ガイドが食事のジャンルや最寄り

企業名	サービス名	電話番号/アドレス
電話放送局	大阪ボイスポータル	06-6311-0104
はてな	人力検索サイト	http://www.hatena.atena.ne.jp
スローネット	Slownet	http://www.slownet.ne.jp

駅などを細かく尋ねるため、利用者は好みのレストランなどを絞り込める。

面倒な検索代行 ページ開設も

現時点では実験段階なので無料だが、来年一月からは電話会社などが提供する電話情報サービスの一つとして実用化していく考えだ。

ネット経由の面倒な検索を代行するサイトもある。機械的に検索すると膨大な情報が表示されがちだが、はてな(京都市、近藤淳也社長)が運営する「人力検索サイト」は「な」では該当する結果だけを表示する。「一九九九年のベストセラーを教えてください」といった質問を書き込めば、サイトの閲覧者が代わりに検索して関連するホームページのアドレスと、当人のコメント

トを回答する仕組み。

通常の検索サイトは「ネットに不慣れた高齢者には不親切」(近藤社長)と感じたことが事業立ち上げのきっかけ。十月から有料にし、決済はインターネット専門銀行による振り込みサービスを使う予定。一つの質問の料金は六十円で、回答を一つ見ると十円ずつ加算され、検索の代行者は手数料を受け取る。

過去に質問をしている場合、料金を支払ったかどうかが色別で表示され、支払い率の低い人は検索を代行してもらえない。同社はバナー広告料と合わせ年間六百九十万円

的に参加しやすいホームページを作った」と運営会社であるスローネット(京都市)の松岡邦哉社長は話す。

入会時のプロフィールでの登場頻度が高い趣味を取り上げたコーナーを増やすなど工夫を重ね、一日平均で一万回のアクセスがあるという。会員数は約五千人だから、一人が一日二回閲覧している計算だ。

インターネットを器用に使いこなせない高齢者は「情報弱者」とみられがち。しかし、情報が使いこなせないというのは、だれでも簡単にパソコンやネットを使える環境が整っていないことの裏返しともいえる。みんなが気軽に参加できるような仕組みがあれば、高齢者にとってもネットが生きがい作りに役立ちそうだ。

(大阪経済部 藤井良憲)



操作に不慣れた高齢者に恩恵

の売り上げを見込む。

高齢者自身の声をもとにコンテンツを提供することで、インターネットへの苦手意識を解消しよう。昨年七月開設の会員制のホームページ「Slownet(スローネット)」は、高齢者に人気の高い「健・食・財・遊」の情報盛りだくさんだ。

機械の操作などハード面を改善しても、情報そのものに魅力がなければ利用は進まない。平均年齢六十二歳のアドバイザーとの定期的な意見交換を踏まえ、「高齢者が積極